# 慈明院寺報四月号

## 願わくは花の下にて・・・

西行法師という歌人が残した歌に「願はくは花の下にて春死なん　その如月の望月の頃」（山家集）がある。ここでの「花」は桜を表すという。和歌の意味は「叶うならば、桜の花が咲いているもとで春に死にたいものだ。それも（お釈迦様が入滅したとされている）陰暦の二月十五日の満月の頃に」となる。

西行は桜を心から愛しており、桜が花を咲かせる春がお気に入りの季節であったのだろう。お釈迦様の入滅には諸説あるが、日本や中国においては二月十五日を入滅の日と定め、涅槃会が行われる。旧暦二月十五日は太陽暦でおよそ三月の中旬にあたる。西行は出家した身であるため、春の中でもお釈迦様と同じ時期にこの世を去りたい、と思いを込めたのだろう。そして西行は文治六年（一一九〇年）の二月十六日にこの世を去った。

お釈迦様の一生において、節目ごとに縁のある植物が三つ伝わっている。「誕生の花」といわれる**無憂樹**は、別名アショーカというマメ科植物である。お釈迦様の母マーヤ夫人が、ルンビニ園に咲き誇るアショーカの花に右手をさしのべた時、お釈迦様が誕生されたといわれている。マーヤ夫人が何の心配もなく、安らかに出産したことから、後にアショーカの花に無憂樹という名がついたと云われている。　他にも「お悟りの木」といわれる**菩提樹**（インドボダイジュ・クワ科）、「入滅の木」といわれる**沙羅双樹**（フタバガキ科の植物）があり、この三つの木々は、**「仏教の三大聖木」**と呼ばれる。

ルンビニ園の花園を偲んで、花まつりには様々な花を飾りつける。今年も色とりどりの花で御堂を飾り、お釈迦様の誕生仏を供養したいと思う。三月十七日は先代住職・明海和尚の祥月命日。今年で亡くなって丸十年になる。きっと親父は花の下で居眠りしているだろう。暑さ寒さも彼岸まで。住職　合掌

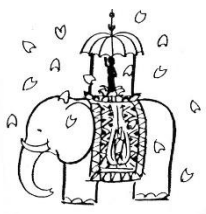
## 春のお彼岸まいりについて

本年は三月十七日(月)頃より、春のお彼岸まいりをお勤めさせて頂きます。各檀家様には、すでに「お彼岸まいり」のお知らせを送らせて頂いております。お忙しい時期とは存じますが、何卒よろしくお願い申し上げます。随時、おまいりについてのお問い合わせ、変更など承ります。　住職　九拝

## 花まつり　自由参拝のご案内

令和七年　**四月一日（火）～四月八日（火）**

**朝九時～夕方五時位迄**



花御堂に誕生仏（お釈迦様）を安置して、甘茶をそそいでご供養致します。甘茶、お楽しみ袋（お菓子詰め合わせ）をお接待致します。花御堂のお釈迦様は**大師堂**に安置しております。大師堂へお参り下さい。どうぞお誘い合わせの上、お参り下さいませ。（別紙参照）

## 住職の独り言

お釈迦様の入滅を描いた絵の事を「涅槃図」という。何年か前に他所のお寺が解散になって、片付けを引き受けた際にこの涅槃図を譲り受けた。今年から花まつりの時に大師堂に飾ってみようと思う。是非おまいり下さい。

慈明院（〒八一一-一一三一　福岡市早良区大字西二三四一-二〇）
TEL（〇九二）八〇四-四五七〇　FAX（〇九二）八〇四-四六〇五
住職・吉住大慈　携帯電話〇九〇-（五二八一）-七四九四